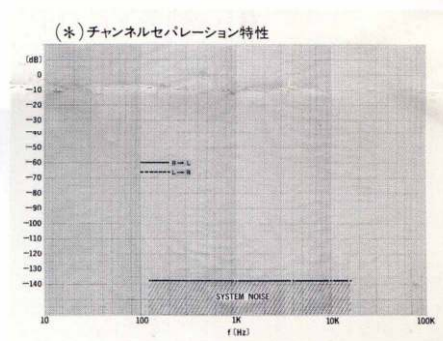
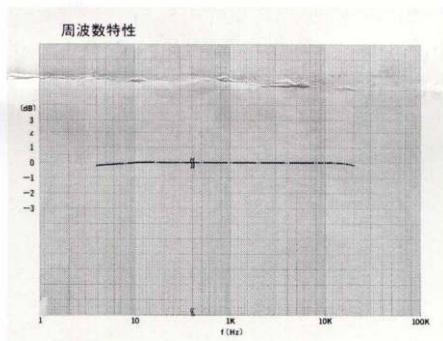
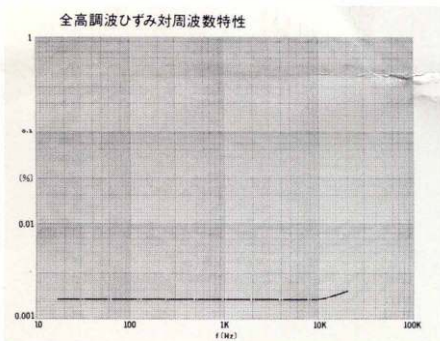
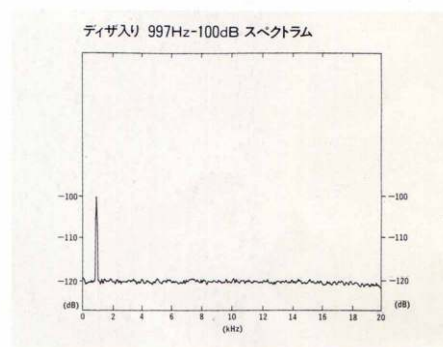
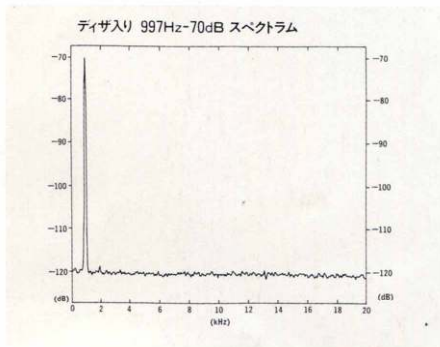




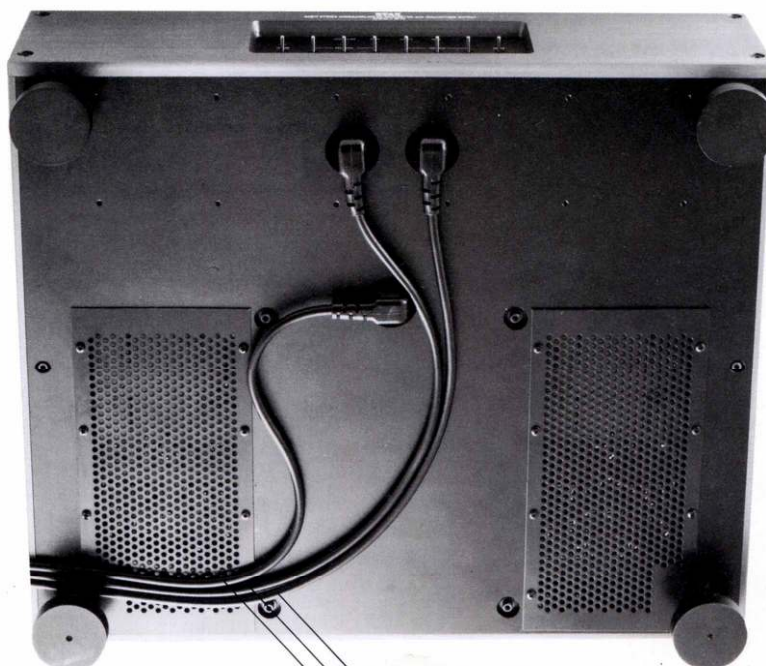
●何故 DAC-X11は左右対称構造を採用したか。

デジタル信号は左右の信号を時間をずらして、同じケーブルを通して送る事ができますが、アナログ信号に変換する段階で左右を分ける必要があります。スタックスでは以前にCA-Xと呼ばれる左右のクロストークを極減したプリアンプを商品化したことがあり、その経験から、左右のクロストークを減らすことが、自然な音場を再現するのに如何に大切かを良く理解しております。その経験・技術ポリシーをこのDAC-X11ではフルに生かし内部構造、レイアウトを決定いたしました。その結果、グラフ[チャンネルセパレーション特性](*)をご覧になれば良くお解りいただけるように、クロストークが-140dBとこれまでの一般的なデータ[-110dB]を30dBも上回っております。これは只数字の違いだけで無く、聴感上もサウンドステージの再現に極めて有効に働いております。この点も認識していただいて、ご試聴いただきたいと思います。



●電源コードを3本用意した理由。

アナログ信号の質が良くなればなる程、外部からのノイズの侵入に注意する必要があります。デジタル部から発生する高周波ノイズがアナログ部分、DA変換部に混入することは音質面からも極力防がねばなりません。DAC-X11では電源部をデジタル部と左右のDA変換部+アナログ出力部とに電源トランスのみで無く電源コードまで独立させ、ノイズの混入を防ぐと共に、左右のクロストークを減らすのにも役立させています。



- 右チャンネルDAC/ANALOG部用電源コード
- 左チャンネルDAC/ANALOG部用電源コード
- デジタルセクション用電源コード